

事務事業名	真岡市文化祭開催事業			担当	教育委員会 文化課 文化振興係		
政策名	B	学びと歴史・文化が豊かな心を育むまちづくり			増補版施策名		
施策名	6	文化芸術の振興			<input type="checkbox"/> 実施計画上の主要事業		
関連個別計画				事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ		
法令根拠					<input type="checkbox"/> 単年度繰返（開始年度 昭和29年度～）		
予算科目	1. 一般会計	10. 教育費	4 社会教育費		<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度（ 年度～ 年度）		
事業概要	文化祭は市民が普段から行っている文化活動の発表の場を提供することにより、文化活動への参加の機運を高め、新しい文化芸術の創造を促し、地域文化の振興に寄与することを目的としている。 市の文化祭は、市制施行時から実施され、令和元年度で66回目を数える歴史のある事業であり、文芸・展示・ホール・茶華道展などを毎年秋に開催している。 運営は文化祭運営委員会を組織して、開催要項の決定、作品の受付・展示、審査、開催当日の対応等の業務を行っている。 市では、会場の設営や応募作品の整理、審査会の準備、表彰式（名簿・賞状作成、賞品の手配等）の開催、芸術もか(記録誌) 発刊の事務を行なっている。						

1. 現状把握の部 (1) 事務事業の目的と指標

① 手段（主な活動） 31年度実績 6月下旬開催要項決定（運営委員会） 7月周知（WINもあか、学校、団体等） 9月作品募集 応募作品の整理、出場団体打合わせ 9～11月開催 11月30日（土）表彰式 * 15部門において開催した。 交付金として180万円を交付。 2年度計画 令和元年度に同じ		⑤ 活動指標（事務事業の活動量を表す指標）の推移 <table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>単位</th> <th>28年度(実績)</th> <th>29年度(実績)</th> <th>30年度(実績)</th> <th>31年度(実績)</th> <th>2年度(見込)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ア 開催日数</td> <td>日</td> <td>29</td> <td>29</td> <td>29</td> <td>26</td> <td>29</td> </tr> <tr> <td>イ 開催部門数</td> <td>部門</td> <td>15</td> <td>15</td> <td>15</td> <td>13</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>ウ 運営委員会開催数</td> <td>回</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>エ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>オ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>							名称	単位	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(実績)	31年度(実績)	2年度(見込)	ア 開催日数	日	29	29	29	26	29	イ 開催部門数	部門	15	15	15	13	15	ウ 運営委員会開催数	回	1	1	1	1	1	エ							オ						
名称	単位	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(実績)	31年度(実績)	2年度(見込)																																												
ア 開催日数	日	29	29	29	26	29																																												
イ 開催部門数	部門	15	15	15	13	15																																												
ウ 運営委員会開催数	回	1	1	1	1	1																																												
エ																																																		
オ																																																		
② 対象（誰、何を対象にしているのか）*人や自然資源等 市民		⑥ 対象指標（対象の大きさを表す指標）の推移 <table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>単位</th> <th>28年度(実績)</th> <th>29年度(実績)</th> <th>30年度(実績)</th> <th>31年度(実績)</th> <th>2年度(見込)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ア : 市民数</td> <td>人</td> <td>79,422</td> <td>79,542</td> <td>79,414</td> <td>79,324</td> <td>78,874</td> </tr> <tr> <td>イ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ウ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>エ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>オ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>							名称	単位	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(実績)	31年度(実績)	2年度(見込)	ア : 市民数	人	79,422	79,542	79,414	79,324	78,874	イ							ウ							エ							オ						
名称	単位	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(実績)	31年度(実績)	2年度(見込)																																												
ア : 市民数	人	79,422	79,542	79,414	79,324	78,874																																												
イ																																																		
ウ																																																		
エ																																																		
オ																																																		
③ 意図（この事業によって、対象をどう変えるのか） 市民の文化芸術に対する関心を高め、文化活動の活性化を図る。		⑦ 成果指標（対象における意図された対象の程度）の推移 <table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>単位</th> <th>28年度(実績)</th> <th>29年度(実績)</th> <th>30年度(実績)</th> <th>31年度(実績)</th> <th>2年度(見込)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ア : 出品点数</td> <td>点</td> <td>1,726</td> <td>1,622</td> <td>1,758</td> <td>1,406</td> <td>1,450</td> </tr> <tr> <td>イ : 出演演目数</td> <td>演目</td> <td>86</td> <td>86</td> <td>71</td> <td>65</td> <td>70</td> </tr> <tr> <td>ウ : 入場者数</td> <td>人</td> <td>4,830</td> <td>1,630</td> <td>1,710</td> <td>1,467</td> <td>1,600</td> </tr> <tr> <td>エ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>オ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>							名称	単位	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(実績)	31年度(実績)	2年度(見込)	ア : 出品点数	点	1,726	1,622	1,758	1,406	1,450	イ : 出演演目数	演目	86	86	71	65	70	ウ : 入場者数	人	4,830	1,630	1,710	1,467	1,600	エ							オ						
名称	単位	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(実績)	31年度(実績)	2年度(見込)																																												
ア : 出品点数	点	1,726	1,622	1,758	1,406	1,450																																												
イ : 出演演目数	演目	86	86	71	65	70																																												
ウ : 入場者数	人	4,830	1,630	1,710	1,467	1,600																																												
エ																																																		
オ																																																		
④ 結果（どんな結果(上位施策)に結びつけるのか） 文化活動への市民参加の拡充と文化芸術の普及		⑧ 上位成果指標（結果の達成度を表す指標）の推移 <table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>単位</th> <th>28年度(実績)</th> <th>29年度(実績)</th> <th>30年度(実績)</th> <th>31年度(実績)</th> <th>2年度(見込)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ア : 文化芸術活動に興味・関心のある市民の割合</td> <td>%</td> <td>62.9</td> <td>62.3</td> <td>61.7</td> <td>63.2</td> <td>65.0</td> </tr> <tr> <td>イ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ウ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>エ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>オ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>							名称	単位	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(実績)	31年度(実績)	2年度(見込)	ア : 文化芸術活動に興味・関心のある市民の割合	%	62.9	62.3	61.7	63.2	65.0	イ							ウ							エ							オ						
名称	単位	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(実績)	31年度(実績)	2年度(見込)																																												
ア : 文化芸術活動に興味・関心のある市民の割合	%	62.9	62.3	61.7	63.2	65.0																																												
イ																																																		
ウ																																																		
エ																																																		
オ																																																		
(2) 総事業費の推移		単位	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(実績)	31年度(実績)	2年度(見込)																																											
投入量	事業費	財源内訳																																																
		国庫支出金	千円	0	0	0	0																																											
		県支出金	千円	0	0	0	0																																											
		地方債	千円	0	0	0	0																																											
		その他	千円	0	0	0	0																																											
	一般財源	千円	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800																																											
	事業費計(A)	千円	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800																																											
	人件費	正規職員従事人数	人	2	2	2	2																																											
		延べ業務時間	時間	860	860	860	860																																											
		人件費計(B)	千円	3,572	3,569	3,585	3,477	3,477																																										
トータルコスト(A)+(B)		千円	5,372	5,369	5,385	5,277	5,277																																											

(3) 事務事業の環境変化・市民意見等

①この事務事業を開始したきっかけは何か？ いつごろどんな経緯で開始されたのか？	昭和29年10月に市制が施行されてから真岡市民芸術祭として開始された。
②事務事業を取り巻く状況（対象者や根拠法令等）はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？	昭和55年までは、教育委員会（事務局は公民館）主催で実施されたが、昭和56年から文化協会（当時の文化団体連絡協議会）に運営を委託し開催している。 平成19年から真岡市文化祭運営委員会の運営により開催
③この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者等）からどんな意見や要望が寄せられているか？	

2. 1次評価の部 *原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的妥当性評価	①政策体系との整合性 ・この事務事業の目的は、市の政策体系に結びつくか？ ・意図することが結果(上位施策)に結びついているか？	<input type="checkbox"/> 結びついている <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 市民の文化芸術の普及・振興に結びつく
	②公共関与の妥当性 ・なぜこの事務事業を市が行わなければならないのか？ ・税金を投入して達成する目的か？	<input type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 市民の文化芸術の普及・振興は行政の役割である。(社会教育法第5条市町村の教育委員会の所管事項に規定されている。)
	③対象と意図の妥当性 ・対象を限定・追加すべきか？ ・意図を限定・拡充すべきか？	<input type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 対象を見直す必要がある <input type="checkbox"/> 意図を見直す必要がある 市民が対象である。
有効性評価	④成果の向上余地 ・成果を向上させる余地はあるか？ ・成果の現状水準とあるべき水準の差異はないか？ ・何が原因で成果向上が期待できないのか？	<input type="checkbox"/> 向上余地はない <input type="checkbox"/> 向上余地がある 年度ごとに増減はあるものの、多くの市民が出品・出演しており、入場者数も多い状況で推移している。
	⑤廃止・休止の成果への影響 ・事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	<input type="checkbox"/> 影響がある <input type="checkbox"/> 影響がない 市民の文化芸術の成果発表の場所が少なくなり、文化芸術水準が向上しない。
	⑥類似事業との統合や連携の可能性 ・他に、類似の形態の事務事業はないか？	<input type="checkbox"/> 類似事業がある(類似の事務事業名を記載) <input type="checkbox"/> 類似事業はない 市民を対象とした全体的(15部門)な文化祭は本事業のみである。
	・類似事業がある場合、その事業と統合したり連携を図ることができるか？	<input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携ができる <input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携できない
効率性評価	⑦事業費の削減余地 ・成果を下げずに事業費を削減できないか？ (仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある 会場の設営、賞状の作成等は職員が実施しており、経費の節減に努めており、更なる事業費の抑制はできない。
	⑧人件費(延べ業務時間)の削減余地 ・やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？ ・成果を下げずに正社員以外の職員や委託でできないか (アウトソーシングなど)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある 市で行う業務である作品の整理作業や会場設営等は、必要最小限で対応している。
公平性評価	⑨受益機会・費用負担の適正化余地 ・事業の内容が一部の受益者に偏って不公平ではないか？ ・受益者負担が公正・公平になっているか？	<input type="checkbox"/> 公正・公平である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 文化芸術の普及・振興を図るため、行政の援助を行っており、受益者負担はない。

3. 改革・改善方向の部

(1) 改革の方向性(改革案・実行計画) <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 見直し(<input type="checkbox"/> :目的妥当性 <input type="checkbox"/> :有効性 <input type="checkbox"/> :効率性 <input type="checkbox"/> :公平性) <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 継続	(3) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
			コスト																					
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(2) 改革、改善を実現する上で克服すべき課題は何か？それをどう克服していくか？																								

4. 事務事業の2次評価結果(事業の総括と事業の方向性)

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 <input type="checkbox"/> 記述説明不足(説明責任不充分) <input type="checkbox"/> 評価内容が客観性を欠く <input type="checkbox"/> 評価内容は客観的と言える	(5) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
			コスト																					
			削減	維持	増加																			
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(2) 2次評価者としての評価結果 ①目的妥当性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ②有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ③効率性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④公平性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり																								
(3) 2次評価者として判断した今後の事業の方向性 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的絞込み <input type="checkbox"/> 目的拡充 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 予算増大 <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	(4) その他2次評価会議で指摘された事項																							